

北原三代子先生

わたくし達

昭和18年卒業

田口仁子 (旧中野)

暑い暑さが去り、馳け足
の様に初秋の風が立ち初めま
したある夜、三田高校の中村
先生より亡き北原先生を偲ぶ
想い出話か何かを、と云うお
話を戴きました。

授業の間を縫つてとの忙し
さの感じられるお声の中に三
田通りがよきりの懐かしい
時計台と、間に皎々と点る教
室の灯りが、そして教壇に立
つておられる北原先生のお姿
が浮び、ジーンと胸に熱いも
のがこみ上げて参りました。

昭和十五年四月、私達は当
時、第六高女夜学校の二部一
年乙組に入学致しました。入
学式は丸山丈作校長先生の信
念溢れる勵ましの御挨拶のお
と、それぞれの教室に入り和
服に袴を付けられたお若い北
原先生に始めて学級の担任と



してお会いしたのでした。
信州の女学校から、東京の
夜間高
女にそ
の時に
転任な
の生徒

恩

が私達で、学校に始めてとい
う点で、先生も私達も同じで
した。おつとりと御不自由な
勉強なさって女高師をお出
になり教壇に立たれた先生は、
働きながら学ぶ私達の気遣と
働きながら学ぶ私達の気遣と
働きながら学ぶ私達の気遣と
働きながら学ぶ私達の気遣と

身頃で「ソミニシ」と覚えな
さい。と仰言つた事を今でも
和服を縫う度に思い出されま
す。でも懐かしい一面もあり、
期日までに宿題を出さなけれ
ば注意をされるので、私など
本と首つ引きで何回も徹夜で
仕上げたものでした。当時の
教科書もノートも、また何度
も縫い直しをさせられた作品
も、残念ながら空襲で皆灰と
なってしまいました。二年
生となり、昭和十六年十一月、
講堂での直戦の詔勅を悲し
く聞いてより、空襲に備えて
退避訓練や、救護訓練などお
りました。在学中は空襲も
なく無事三年はすぎ、昭和十
八年三月薄暗い講堂で卒業式
をあげ私達は母校を去りまし
た。ちょうど今から四十年前
の事なのだと想うと、何か夢
の様な気が致します。

そして戦争、空襲、戦後と、
どうやら生き抜き、住所の分
かった人達で第一回のクラス
会を昭和二十八年七月懐かし
い三田で開き、先生を囲み感
動の一日を過ぎました。その
後、じよよに消息を尋ね合
い、便箋に消息を書いては重
ねて次に送る、リレー通信の
形で、やっと二十六名の人達
の住所
がわか
りまし
たので

師

在学中にクラスで作った文集
「雑草」にちなみ、続雑草と
生はこの事を、大変に喜ばれ
て、昭和四十四年六月には、
御自宅を開放下さって、卒業
後二十六年ぶりのクラス会と
して二十名の出席者で盛大な
会となりました。

そのおり先生は、御趣味の
ごきん刺繍の「紗紗入れ」を、
お作りになりぬいぬいに下さ
りました。几帳面な御性格を
表わすかの様を正確な刺し目
や、裏表の吸い付く様を仕上
りの袋を当日集まる二十何名
かの為に、一心に夜も遅くま
でお造り下さった事など想
い、御子様のないお気持など
と想い合わせ、また涙があふ
れます。

それから、暫くの間、毎年
のクラス会にも和やかな笑顔
で、お家を出る時に、久し振
りに娘達に会って来ます。等
と言ってこられると話されつ
つ何時も御出席下さいました
が、昭和五十二年に乳癌の手

術をなさってから、薬の副作用
用から、御具合の悪い日が続
き、いつも信濃町の慶應病院
に、入院を繰り返されまし
た。その度に、一部の卒業生
の山田さんにお世話になった
事をとても感謝して話された
事を覚えております。苦しい
御闘病の毎日でしたが、先生
は何時も優しい笑顔を絶やさ
ず、私達の健康を気遣い、
一日置きに来られる御主人様
にも優しく上着を掛けてお上
げになる本当に物静かな貞淑
なお姿は忘れずは出来ませ
ん。

それからいろいろの治療を
重ねられましたが、五十三年
八月四
日すべ
るの期
にて御
永眠な
された。

を

庭に真赤なサルビアの咲き
盛る御葬儀の日、夏沼さん、
柴田さん、大西さん、私、参
列していただき、盛夏乍ら
何時も控え目に御自分を押し
え他を立てられてお通りにな
られた先生のお気持の故か、
暑さを感じさせない大変に涼
しい口を参列者に下さいまし
た。

白髪之交じられた髪を何時
もの様に中心より分けられ
薄化粧なさって今にも目覚め
るかの様に花に埋れて眠って
おられた先生のお美しいお
顔は、静かな優しいお声で私
達に語りかけて下さる様な気
がして、今もありありと眼裏
に浮んで参ります。

想い出も、皆それぞれに胸
の中に温めておられる事と想
いますが、とてもお優しいさの
象徴の様な先生であり、先生
の前に参りますと、皆優しい
素直な生徒になってしまいう様
な先生でございました。
戦中から戦後にかけて、あ
の波乱の多い時代の中を、誠
実に温厚に二十三年の長い間
私達を御指導下さいました教
育者としての真摯な御愛や
また聡明な御家庭人としての
愛情深い御日常など六十九年
の御生涯に對しまして私達は、
心からの尊敬と感謝の思いば
かりでございます。

そしてこの度その御遺徳の
一端と致しまして、奨学奨励
の基金に、先生の御名が母
校に刻まれて、勉学に燃える
後輩の方達への、熱い励まし
となり、これから翔く若い人
達の幸いの芽生えとなるなら
亡き先生の御霊もどんなにか
お喜び下さる事と思ひます。

先生のお好きな萩の花のこ
し日の
面影を
懐びな
がら、
謹んで御冥福をお祈り中上げ
る次第でございます。

三田高同窓会よりのお電話
再三留守にしておりましたの
で何ごとかと一瞬ギクリ……
実は北原三代子先生の想い出
を一筆との事、困ってしまっ

慕

頃ここ
に在り
が、
手伝ってくれたクラスの親友
小池保子ちゃん(旧湯浅)が
いたからかしら。

昭和32年卒業
大森和子 (旧森川)

昭和32年卒業
小林早苗 (旧白田)

一度、
お年賀
状だけ
う
たが、
亡くな

られたのを知った時には、何
でしようね。席に着きました
か心の中で、支柱を二本失つた
ら、いきなり後の方で、もの
様な、頼りなさを覚えました。
すごい大きな音が鳴りひびき
先生のことで思い出すこと
と申し上げれば、矢張り、何
ともしました。本当に驚かれた
時も愛らない、おだやかなや
御様子に、若さと云う残酷さ
さしいお顔と、お声ですね。
からか、友人と笑いこらけて
音楽喫茶の走りの頃だった
ふと思ひ出しました。



(戸誠銀座通り中央)
平山芳三 (50年卒)
東京都品川区戸越二一六一十三
電話 (七八四) 九七五三番
ナワヨ クシチゴサン

印刷のトータルプランナー
●美術印刷全般●
企画・デザイン・版下・印刷
(有)三美総合企画
〒162 新宿区新小川町5-29 孝和ビル
TEL (03) 268-1279 (代)